

柔道整復科 (3 年次)

2025 年度 シラバス目次

科目名	項
01. 療法科学	2
02. 病理学概論Ⅱ	7
03. 公衆衛生学・衛生学	9
04. 社会体育Ⅲ(柔道)	13
05. 関係法規	17
06. 基礎柔道整復学Ⅳ	19
07. 基礎柔道整復学Ⅴ	22
08. 基礎柔道整復学Ⅵ	25
09. 基礎柔道整復学Ⅶ	27
10. 基礎柔道整復学Ⅷ	29
11. 基礎柔道整復学Ⅸ	31
12. 柔整実技ⅠA	34
13. 柔整実技ⅠB	36
14. 柔整実技ⅠC	38
15. 柔整実技ⅡA	42
16. 柔整実技ⅡB	45
17. 柔整実技ⅡC	48
18. 柔整実技ⅢA	52
19. 柔整実技ⅢB	54

[illegible]

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	療法科学
担当者	中村 浩
単位数（時間数）	4単位(68時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	南江堂 病理学概論第3版 医歯薬出版株式会社 一般臨床医学第3版・外科学第4版・リハビリテーション医学第3版・ 整形外科学第4版・衛生学公衆衛生学第6版

授業概要と目的
一般臨床医学をはじめとした各教科の包括的復習を行うことにより様々な疾患に対する理解を深め、柔道整復学とのつながりを強固なものとし、医療従事者の一員である柔道整復師として業務を行うにあたり、より医療知識に精通した医療人の育成を目的とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期	「一般臨床総論①」 視診についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に診察としての視診について学ぶ」 視診の方法と体格、姿勢など各評価項目の代表的な異常と疾患の関係について説明できる。	中村浩
2	後 期	「一般臨床総論②」 打診、聴診についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に打診、聴診について学ぶ」 打診、聴診の方法と打診音、聴診音など各評価項目の代表的な異常と疾患の関係について説明できる。	中村浩
3	後 期	「一般臨床総論③」 触診についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に触診について学ぶ」 触診の方法と各部位の触診によって評価できる代表的な異常と疾患の関係について説明できる。	中村浩
4	後 期	「一般臨床総論④」 生命徴候についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に生命徴候について学ぶ」 体温、血圧、脈拍、呼吸の正常と異常の違い及び疾患の関係について説明できる。	中村浩

5	後 期	「一般臨床総論⑤」 感覚検査、反射検査についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に感覚検査、反射検査について学ぶ」 感覚の種類と検査方法及び反射の種類と検査方法の特徴と意義について説明できる。	中村浩
6	後 期	「一般臨床総論⑥」 臨床症状についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に代表的な臨床症状について学ぶ」 出血傾向、意識障害、浮腫などの代表的な臨床症状と疾患の関係について説明できる。	中村浩
7	後 期	「一般臨床各論①」 代表的な呼吸器疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に呼吸器における代表的な疾患について学ぶ」 呼吸器疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
8	後 期	「一般臨床各論②」 代表的な循環器疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学、外科学を軸に循環器における代表的な疾患について学ぶ」 循環器疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
9	後 期	「一般臨床各論③」 代表的な消化器疾患（総論、消化管疾患）についての理解を深める。	「一般臨床医学、外科学を軸に消化器における主要な徴候と消化管の代表的な疾患について学ぶ」 消化器疾患の主要徴候と消化管疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
10	後 期	「一般臨床各論④」 代表的な消化器疾患（肝胆膵疾患、腹膜疾患）についての理解を深める。	「一般臨床医学、外科学を軸に消化器における肝胆膵と腹膜の代表的な疾患について学ぶ」 消化器疾患の肝胆膵疾患、腹膜疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
11	後 期	「一般臨床各論⑤」 代表的な代謝疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に代表的な代謝疾患について学ぶ」 代謝疾患の概念と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
12	後 期	「一般臨床各論⑥」 代表的な内分泌疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に代表的な内分泌疾患について学ぶ」 内分泌疾患の概念と各ホルモンの特徴及び	中村浩

			各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	
13	後 期	「一般臨床各論⑦」 代表的な血液・造血器疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に血液・造血器における代表的な疾患について学ぶ」 血液・造血器疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
14	後 期	「一般臨床各論⑧」 代表的な腎・尿路疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に腎・尿路における代表的な疾患について学ぶ」 腎・尿路疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
15	後 期	「一般臨床各論⑧」 代表的な神経疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に神経系における代表的な疾患について学ぶ」 神経疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
16	後 期	「一般臨床各論⑨」 代表的な感染症についての理解を深める。	「一般臨床医学・病理学・外科学・公衆衛生学を軸に代表的な感染症について学ぶ」 感染の原因と経路、病因及び各感染症の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
17	後 期	「一般臨床各論⑩」 リウマチ・代表的な膠原病・アレルギーについての理解を深める。	「一般臨床医学・病理学・整形外科学を軸にリウマチ・膠原病・アレルギーについて学ぶ」 リウマチ・膠原病・アレルギーの疾患の概念と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
18	後 期	「感染性疾患」 代表的な外科的感染性疾患についての理解を深める。	「整形外科学・外科学を軸に化膿性骨髄炎を代表とする外科的感染性疾患について学ぶ。」 化膿性骨髄炎や骨関節結核などの代表的な外科的感染性疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
19	後 期	「腫瘍」 腫瘍の一般についての理解を深める。	「外科学・病理学・整形外科学を軸に腫瘍の概念、分類、種類について学ぶ」 腫瘍の概念、成因、分類と主な良性・悪性腫瘍の種類及び特徴について説明できる。	中村浩

20	後 期	「非感染性軟部・骨関節疾患」 変形性関節症などの非感染性の軟部・骨関節疾患についての理解を深める。	「整形外科学を軸に非感染性の軟部・骨関節疾患について学ぶ」 変形性関節症や骨粗鬆症に代表される非感染性軟部・骨関節疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
21	後 期	「先天性疾患」 遺伝、染色体の異常による先天性疾患についての理解を深める。	「病理学・整形外科学を軸に遺伝・染色体異常による先天性疾患について学ぶ」 先天性疾患の概念と遺伝・染色体の異常による代表的疾患の分類、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
22	後 期	「骨端症」 代表的な骨端症についての理解を深める。	「整形外科学を軸に代表的な骨端症について学ぶ」 ペルテス病をはじめとする骨端症の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
23	後 期	「整形外科的神経・筋疾患」 絞扼性神経障害や脊髄損傷に代表される外科的神経・筋疾患についての理解を深める。	「整形外科学・リハビリ学を軸に整形外科的神経・筋疾患について学ぶ」 絞扼神経障害や全身性神経・筋疾患、脊髄損傷等疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
24	後 期	「整形外科的体幹部疾患」 ヘルニアに代表される体幹にみられる整形外科的疾患についての理解を深める。	「整形外科学・リハビリ学を軸に体幹に発生する代表的な疾患について学ぶ」 頸椎症、ヘルニア、脊柱管狭窄症などの体幹に発生する疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
25	後 期	「整形外科的上肢疾患」 上肢に発生する代表的な整形外科的疾患についての理解を深める。	「整形外科学・リハビリ学を軸に上肢に発生する代表的な疾患について学ぶ」 腱板損傷、手根管症候群など上肢に発生する疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
26	後 期	「整形外科的下肢疾患」 下肢に発生する代表的な整形外科的疾患についての理解を深める。	「整形外科学・リハビリ学を軸に下肢に発生する代表的な疾患について学ぶ」 アキレス腱断裂、外反母趾など下肢に発生する疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩

27	後 期	「脳・神経外科疾患」 外科的な脳・神経の中枢性疾患についての理解を深める。	「外科学を軸に代表的な脳・神経疾患について学ぶ」 脳・神経疾患の主要徴候と代表的な頭部外傷、脳血管障害の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
28	後 期	「損傷」 外傷、熱傷など損傷についての総論的理解を深める。	「外科学、病理学を軸に外傷、熱傷など損傷についての総論的内容を学ぶ」 損傷、創傷、熱傷の概説、分類、判定、治療基準のポイントについて説明できる。	中村浩
29	後 期	「ショック」 ショックについて理解を深める。	「外科学を軸にショックについて学ぶ」 ショックの分類とそれぞれの特徴及び処置法について説明できる。	中村浩
30	後 期	「消毒」 消毒と殺菌及び滅菌についての理解を深める。	「公衆衛生学・外科学を軸に消毒と殺菌及び滅菌について学ぶ」 消毒法の分類と各消毒薬についての特徴及び方法について説明できる。	中村浩
31	後 期	「炎症」 病理学的な炎症の一般と分類について理解を深める。	「病理学を軸に炎症の一般と分類について学ぶ」 炎症の原因と形態学的変化及び炎症の分類について説明できる。	中村浩
32	後 期	「免疫」 免疫の仕組みと免疫不全、自己免疫疾患についての病理学的理解を深める。	「病理学を軸に免疫の仕組み、免疫不全及び自己免疫疾患について学ぶ」 免疫の仕組みと関連する免疫不全、自己免疫疾患、アレルギーの特徴について説明できる。	中村浩
33	後 期	「病因①」 病因の一般と内因についての理解を深める。	「病理学・公衆衛生学を軸に病因の一般と内因について学ぶ」 病因についての概説と素因、体質、遺伝などのそれぞれの内因の特徴について説明できる。	中村浩
34	後 期	科目試験		中村浩
成績評価 方法		中間試験(40%) 科目試験(60%)		
準備学習 など		教科書や配布資料等を用いて予習復習に努めること。		
留意事項		特になし		

学科・年次	柔道整復科・3年次
科目名	病理学概論Ⅱ
担当者	加藤 裕美
単位数（時間数）	2単位(34時間)
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(病理学概論)

授業概要と目的
病理学概論の知識を基礎として、個々の代表的な疾患の病態を学び、代表的な疾患における疾病の発症機序や形態的变化を説明できることを目的とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する①	循環器疾患の基礎となる心臓の構造、動脈、静脈、刺激伝導系について理解し説明することができる。	加藤 裕美
2	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する②	循環器疾患の先天性疾患疾患、虚血性心疾患、高血圧症について理解し説明することができる。	加藤 裕美
3	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する③	血液疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
4	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する④	リンパ系器官、リンパ系疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
5	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑤	上部消化管疾患、特に胃の構造、代表的な疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
6	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑥	下部消化管疾患、特に腸の構造、腸の疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美

7	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑦	肝臓の代表的な疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
8	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑧	脾臓、胆道の代表的な疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
9	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑨	呼吸器疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
10	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑩	腎臓、泌尿器系の疾患、構造について理解し説明することができる。	加藤 裕美
11	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑪	生殖器系の疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
12	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑫	内分泌系の疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
13	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑬	脳疾患、クモ膜下出血、脳内出血、硬膜下血腫等について学び説明することができる。	加藤 裕美
14	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑭	脳の感染症、アルツハイマー、パーキンソン病等について理解し説明することができる。	加藤 裕美
15	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑮	運動器に関する疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
16	前 期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑯	耳、眼の疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
17	前 期	期末テスト まとめ	試験を行い、解説をし、知識を修得する。	加藤 裕美
成績評価方法		試験による成績により評価する		
準備学習など		予習・復習を行っておくように。		

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	公衆衛生学・衛生学
担当者	中村 浩
単位数（時間数）	2単位（34時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	南江堂 公衆衛生学 改訂第6版

授業概要と目的
国民の健康、医療倫理、感染症の知識や消毒など広く国民福祉に関わる事柄を学ぶことで、国民の健康を運動器の観点から守っていく柔道整復師が一人の医療従事者としてより健康に貢献できる存在となるための知識を身につける。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「(公衆)衛生学の歴史と公衆衛生活動」 (公衆)衛生学の歴史と公衆衛生活動の種類を理解する。	「衛生学と公衆衛生学の学問としての歴史及び公衆衛生活動の5つの基本分野を学ぶ」 ①単語や人名を交えて衛生学・公衆衛生学の歴史を説明できる。 ②人口統計や健康教育などの公衆衛生活動の概要を説明できる。	中村浩
2	前期	「健康の概念」 健康と生活の役割及び健康の測定について理解する。	「健康と生活習慣病の関係及び人口統計をはじめとした健康の測定について学ぶ」 ①健康の概念と国際生活機能分類の関係や生活の役割について説明できる。 ②人口動態統計と人口静態統計について説明できる。 ③粗死亡率などの健康指標の種類を説明できる。	中村浩
3	前期	「疾病予防と健康管理」 病因と危険因子の概念と疾病予防の段階について理解する。	「病因と危険因子の概念と疾病予防の各段階について学ぶ」 ①病因となりうる危険因子の概念を説明できる。 ②一次、二次、三次予防の各段階のそれぞれの特徴を説明できる。	中村浩

4	前 期	「感染症の予防」 感染症の原因となる病原体と感染成立の条件及び感染症の予防対策を理解する。	「感染症の病原体の種類と感染成立の条件及び感染症法における分類とその対策を学ぶ」 ①感染症成立の3つの要因について説明できる。 ②ウイルスや細菌感染症の種類について説明できる。 ③感染症の予防対策と感染症の分類について説明できる。	中村浩
5	前 期	「消毒①」 消毒法の目的による分類と消毒の種類と方法について理解する。	「消毒法の目的による分類の違いと消毒の3要素及び消毒法の種類と方法を学ぶ」 ①滅菌、殺菌などの単語の意味をそれぞれ説明できる。また、消毒の効力に影響を及ぼす要素の説明ができる。 ②理学的・化学的消毒法の種類と特徴について説明できる。	中村浩
6	前 期	「消毒②」 消毒法の応用と施術における消毒及び院内感染対策について理解する。	「手指や皮膚の消毒や施術時の消毒方法及び院内感染への対策を学ぶ」 ①清拭法や皮膚への消毒薬の選択などについて説明できる。 ②院内感染対策のスタンダード・プリコーションについて説明できる。	中村浩
7	前 期	「環境衛生(環境保健)①」 地球環境、生物環境に対しての問題と環境要因について理解する。	「温暖化などの環境変化や生態系異常の問題及び気温や喫煙などの環境要因について学ぶ」 ①人口増加や温暖化などの環境の問題についての概要を説明できる。 ②温熱の4要素をはじめとした各環境要因の概要を説明できる。	中村浩
8	前 期	「環境衛生(環境保健)②」 公害や大気汚染などによる生活環境の被害について理解する。	「公害の歴史と公害による汚染及び環境問題について学ぶ」 ①4大公害訴訟の原因や被害について説明できる。 ②環境問題の指標となる大気汚染や水質汚濁などの種類を説明できる。	中村浩

9	前 期	「生活環境・食品衛生活動」 水や食品の衛生問題について理解する。	「水の衛生と水質汚濁及び食品中の病原微生物による健康被害について学ぶ」 ①上水、下水の普及率や検査項目など問題点の説明ができる。 ②食中毒の健康被害など原因別に説明できる。	中村浩
10	前 期	「母子保健」 母子保健の指標について理解する。	「乳児死亡率、周産期死亡率などの母子保健の指標となる項目を学ぶ」 ①乳児死亡や周産期死亡などの定義と原因について説明できる。	中村浩
11	前 期	「学校保健」 学校保健の組織と運営及び予防すべき感染症について理解する。	「学校保健の組織と運営及び学校において予防すべき感染症の3種について学ぶ」 ①学校保健に関係する職員の種類と役割について説明できる。 ②学校において予防すべき感染症の種類や出席停止期間の基準を説明できる。	中村浩
12	前 期	「産業保健」 労働災害や業務上疾病及び各要因による健康障害について理解する。	「労働災害の動向や業務上疾病とその原因と対策について学ぶ」 ①労働災害と業務上疾病の発生状況について説明できる。 ②各要因による健康障害とその予防の基本について説明できる。	中村浩
13	前 期	「成人・高齢者保健」 成人・高齢者の主要死因別の死亡率推移や生活習慣病別の死亡率や特徴について理解する。	「主要死因別死亡率の推移状況及び各生活習慣病の特徴や死亡率について学ぶ」 ①主要死因別にみた死亡率の推移について説明できる。 ②生活習慣病の占める死亡割合と総患者数及び特徴について説明できる。	中村浩
14	前 期	「精神保健」 精神の病気の種類と精神障害受療者の疾病別割合について理解する。	「精神の病気の種類と特徴及び精神障害受療者の疾病別割合について学ぶ」 ①統合失調症をはじめとした精神の病気の種類と特徴について説明できる。 ②外来・入院別で精神障害受療者の割合について説明できる。 ③任意入院や措置入院などの用語の説明ができる。	中村浩

15	前 期	「地域保険と国際保健」 地域保険と保険に関する国際協力について理解する。	「地域保険の展開やWHOの業務及び国際的な環境保全について学ぶ」 ①ヘルスプロモーションなどの地域保険に関係する用語と実際について説明できる。 ②WHOの活動について説明できる。 ③ウィーン条約などの国際的な環境保全に関する用語について説明できる。	中村浩
16	前 期	「衛生行政と保健医療の制度」 衛生行政機構の概要及び医療保険制度を理解する。	「わが国の衛生行政に関わる組織の概要とその業務及び医療保険制度の概要について学ぶ」 ①国、都道府県、保健所などの衛生行政機構の概要と役割について説明できる。 ②医療保険制度と保険給付について説明できる。	中村浩
17	前 期	「疫学②」 分析疫学の研究方法と特徴を理解する。 科目試験	「疫学における調査方法の種類と特徴について学ぶ」 ①記述疫学と分析疫学についての説明ができる。 ②疫学研究におけるエビデンスレベルとバイアスの関係について説明できる。	中村浩
成績評価方法	中間試験(40%) 科目試験(60%)			
準備学習など	教科書や配布資料等を用いて予習復習に努めること。			
留意事項	特になし			

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	社会体育Ⅲ（柔道）
担当者	近藤英隆
単位数（時間数）	2単位（68時間 34コマ）
学習方法	講義および実技
教科書・参考書	「柔道」全国高等学校協会体育連盟柔道部編集 史資料出版協会発行

授業概要と目的
【何を学ぶか / Outline and objectives】 柔道の基本的動作をマスターし、对人的技能における攻撃・防御の技能を実践的に体得する 【到達目標 / Goal】 技能の程度に応じた練習や試合ができるようにする。 礼儀作法や相手を尊重し、公正な態度で相手を労わりながら練習や試合ができるようにする。 【授業の進め方 / Method】 柔道の特性を理解させて基本動作である礼法、組み方、崩し、進退動作、受身、投げ技、固め技、技の連絡変化、自由練習を体得し、安全に留意して練習や試合ができるように学習する。さらに、専門的知識及び実技能力以外に、その領域特性を踏まえた体づくり運動も行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	固め技 ・固め技について理解を深める	抑え込み技 時間、参りの合図 袈裟固め 肩固め ・押さえ込み技が実践できる	近藤英隆
2	通年	固め技 ・固め技について理解を深める	上四方固め 横四方固め 縦四方 ・固め技が実践できる	近藤英隆
3	通年	固め技 ・固め技について理解を深める	崩れ四方固め ・固め技が実践できる	近藤英隆
4	通年	寝技自由練習 ・固め技について理解を深める	抑え込み技 自由練習 ・固め技が自由練習にて実践できる	近藤英隆

		る		
5	通年	柔道の形 間合いと礼法 ・柔道の形について理解を深める	間合いと礼法 手技① 浮き落とし ・浮き落としが説明できる	近藤英隆
6	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	手技② 背負い投げ ・背負い投げが説明できる	近藤英隆
7	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	手技③ 肩車 ・肩車が説明できる	近藤英隆
8	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	腰技① 浮き腰 ・浮き腰が説明できる	近藤英隆
9	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	腰技② 払い腰 ・払い腰が説明できる	近藤英隆
10	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	腰技③ 釣り込み腰 ・釣り込み腰が説明できる	近藤英隆
11	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	足技① 送り足払い ・送り足払いが説明できる	近藤英隆
12	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	足技② 支え釣り込み足 ・支え釣り込み足が説明できる	近藤英隆
13	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	足技③ 内股 ・内股が説明できる	近藤英隆
14	通年	活法 ・活法について理解を深める	活法（惣活のやり方・心得） ・活法が説明できる	近藤英隆
15	通年	絞め技 ・絞め技について理解を深める	裸絞め 送り襟絞め 片羽絞め ・締め技が説明できる	近藤英隆
16	通年	絞め技 ・絞め技について理解を深める	並十字絞め 逆十字絞め ・絞め技が説明できる	近藤英隆
17	通年	絞め技 ・絞め技について理解を深める	絞め技の防御法 ・絞め技が説明できる	近藤英隆

		る		
18	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・礼法を中心復習する ・形と礼法が説明できる	近藤英隆
19	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
20	通年	試験とまとめ ・授業の習熟を確認	試験と解説 ・固め技、投げの形、礼法、投技、絞め技について説明ができる	近藤英隆
21	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
22	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
23	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
24	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
25	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
26	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
27	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
28	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
29	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
30	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆

		める		
31	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
32	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
33	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
34	通年	試験とまとめ	試験と解説	近藤英隆
評価方法		出席点、授業への参加意欲、試験結果を評価とする。		
準備学習など		事前学修 次回の学修内容について事前学習をしておくこと。		

学科・年次	柔道整復科・3 学年
科目名	関係法規
担当者	鬼頭 宏
単位数（時間数）	2 単位（34 時間）
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	関係法規（医歯薬出版株式会社）

授業概要と目的
柔道整復師の行う業務範囲及び業務の制限について理解する。開業する場合の設置基準や守秘義務など柔道整復師として必要最低限の知識を得ること、さらに他の法律との関連性についても学ぶことを目的とし、柔道整復師として接骨院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前 期	・ 法の意義・体系について理解する。	・ 法の種類と内容を要約し、相手に伝えられるように知識を深める。	鬼頭 宏
2	前 期	・ 柔道整復師法について理解する。	・ 目的と意義、免許について学び、知識を深める。	鬼頭 宏
3	前 期	・ 柔道整復師法について理解する。	・ 柔道整復師名簿、免許の書き換え、再交付について知識を深める。	鬼頭 宏
4	前 期	・ 柔道整復師国家試験について柔道整復師の業務について理解する。	・ 柔道整復師試験の要綱、実施について理解する。また柔道整復師の業務について知識を深める。	鬼頭 宏
5	前 期	・ 法の意義・体系、柔道整復師法、国家試験のまとめ	・ 今まで学習した内容を確認する。	鬼頭 宏
6	前 期	・ 業務について理解する。	・ 業務範囲や禁止事項について知識を深める。	鬼頭 宏
7	前 期	・ 施術所とその広告について理解する。	・ 施術所・広告の規定について知識を深める。	鬼頭 宏
8	前 期	・ 罰則について理解する。	・ 各種刑罰について知識を深める。	鬼頭 宏

9	前 期	・ 医師法について理解する。	・ 医師法とその内容について知識を深める。	鬼頭 宏
10	前 期	・ 業務、施術所とその広告、罰則についてまとめ	・ 今まで学習した内容を確認する。	鬼頭 宏
11	前 期	・ 歯科医師法、保健師助産師看護師法について理解する。	・ 各法律の内容について知識を深める。	鬼頭 宏
12	前 期	・ 医療従事者の法律について理解する。	・ 各医療従事者の法律について特に国家試験出題のある理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、薬剤師を中心に知識を深める。	鬼頭 宏
13	前 期	・ 医療法について理解する。①	・ 総則や医療選択の支援等について知識を深める。	鬼頭 宏
14	前 期	・ 医療法について理解する。②	・ 医業、歯科医師又は助産師の業務等の広告、医療の安全確保について知識を深める。	鬼頭 宏
15	前 期	・ 医師法など医療従事者の関係法規のまとめ	・ 今まで学習した内容を確認する。	鬼頭 宏
16	前 期	・ 医療法について理解する。③	・ 病院、診療所及び助産所について知識を深める。	鬼頭 宏
17	前 期	・ 試験と解説	・ 試験を振り返り、解説を行い、国家試験において何が足りないのか考察する。	鬼頭 宏
成績評価方法		試験による。小テストも反映する。		
準備学習など		国家試験にちなんだ内容を行い、関係法規の必修項目を中心に講義を進める。国試過去問にて学んだ範囲を復習してほしい。		

学科・年次	柔道整復科・3 学年
科目名	基礎柔道整復学Ⅳ
担当者	鈴木 雅夕
単位数（時間数）	2 単位（34 時間） 前期
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	柔道整復学・理論編（全国柔道整復学校協会編・南江堂）・整形外科科学

授業概要と目的
柔道整復師としての臨床経験を活かし、国家試験に向けて主に柔道整復学の復習を行いながら、それに付随する他の国家試験科目についても復習を行っていく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	骨折総論① 病的骨折について	骨折総論の中で特に病的骨折について問い、局所的疾患の特徴、発生年齢、予後などを説明することができる。	鈴木
2	前期	骨折総論② 開放性骨折について	骨折総論の中で特に開放性骨折について問い、柔道整復師としての対応や、患者の全身症状、開放性骨折による感染症について説明することができる。	鈴木
3	前期	骨折総論③ 合併症について	骨折総論の中で特に骨折による合併症について問い、発生時期による分類、患者の症状、特有の症状、発生原因などを説明することができる。	鈴木
4	前期	骨折各論 鎖骨骨折について①	国家試験でも出題頻度が高く、臨床の現場でもよく見る疾患の一つであるため、鎖骨の解剖、概説、症状を説明することができる。	鈴木
5	前期	骨折各論 鎖骨骨折について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木

6	前期	骨折各論 上腕骨外科頸骨折について①	国家試験での出題頻度が高く、高齢者に発生しやすい骨折の一つであるため、上腕骨の解剖、概説、症状、内側型、外側型の違いについて説明することができる	鈴木
7	前期	骨折各論 上腕骨外科頸骨折について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木
8	前期	確認テスト	1～7 回目までの内容の確認テスト	鈴木
9	前期	テストの復習 骨折各論 上腕骨顆上骨折について	テストの復習 国家試験での出題頻度が高く、小児に発生しやすい骨折の一つであるため、小児骨折の特徴、整復時の注意点、後遺症について説明することができる。	鈴木
10	前期	骨折各論 モンテギア骨折について	脱臼骨折であるモンテギア骨折は整復順序や固定肢位、神経損傷による症状が国家試験に出題されることがあるので、モンテギア骨折について説明することができる。	鈴木
11	前期	骨折各論 上腕骨外顆骨折	上腕骨顆上骨折に次いで発生頻度が高いと言われている上腕骨外顆骨折、国家試験でも骨片の転位や後遺症について問われることが多いので、症状、整復法、固定法、後遺症を説明することができる。	鈴木
12	前期	骨折各論 橈骨遠位端骨折	国家試験でも出題頻度が高く、臨床の現場でもよく見る疾患の一つであるため、手関節の解剖、概説、症状を説明することができる。	鈴木
13	前期	骨折各論 橈骨遠位端骨折	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することが出来る。	鈴木
14	前期	骨折各論 舟状骨骨折	手根骨骨折の中でも発生頻度が高く、他の外傷の合併症としても問われることが多いため、概説、症状、固定法を説明することができる。	鈴木

15	前期	骨折各論 手指の骨折	骨折の部位によって筋の作用による特有の変形肢位があるため、それを理解し、整復法、固定法を説明することができる。	鈴木
16	前期	1～15 までの確認テスト	確認テスト	鈴木
17	前期	テストの見直し	テストの見直し	鈴木
成績評価方法		試験（2 回）による成績（100 点）により評価する。		
準備学習など		教科書に沿って作成したサブノートを使用して授業を行う。講義が終わっても国家試験対策の資料として活用できる。		

学科・年次	柔道整復科・3年次
科目名	基礎柔道整復学Ⅴ
担当者	宮村 由紀子
単位数（時間数）	2単位（34時間） 前期
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	柔道整復学・理論編（全国柔道整復学校協会編・南江堂）・整形外科科学

授業概要と目的
柔道整復師としての臨床経験を活かし、国家試験に向けて主に柔道整復学の復習を行いながら、それに付随する他の国家試験科目についても復習を行っていく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	脱臼各論 肘内障について	臨床の現場でもよく見る疾患の一つで、幼小児に起こる特徴的な疾患であるため症状、整復法について説明することができる。	宮村由紀子
2	後期	骨折各論 上腕骨骨幹部骨折について①	国家試験でも出題されることが多々あり、骨折場所により転位や固定方法が異なるので違いを理解し説明することができる。	宮村由紀子
3	後期	骨折各論 上腕骨骨幹部骨折について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	宮村由紀子
4	後期	脱臼各論 肩鎖関節脱臼について①	国家試験でも出題頻度が高く、臨床の現場でもよく見る疾患の一つであるため、鎖骨の解剖、概説、症状を説明することができる。	宮村由紀子
5	後期	脱臼各論 肩鎖関節脱臼について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	宮村由紀子

6	後期	脱臼各論 肩関節脱臼について①	国家試験での出題頻度が高く、脱臼頻度の高い疾患であるため、上腕骨の解剖、概説、症状、ついて説明することができる	宮村由紀子
7	後期	脱臼各論 肩関節脱臼について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	宮村由紀子
8	後期	確認テスト	1～7 回目までの内容の確認テスト	宮村由紀子
9	後期	テストの復習 脱臼各論 肘関節後方脱臼について①	テストの復習 国家試験での出題頻度が高い疾患の一つであるため、症状、整復時の注意点、後遺症について説明することができる。	宮村由紀子
10	後期	脱臼各論 肘関節後方脱臼について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	宮村由紀子
11	後期	脱臼各論 手指の脱臼について①	国家試験でも出題されることが多々あるため、症状、整復時の注意点などを説明することができる。	宮村由紀子
12	後期	脱臼各論 手指の脱臼について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	宮村由紀子
13	後期	骨折各論 下腿骨幹部骨折について	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	宮村由紀子
14	後期	骨折各論 肋骨骨折について	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	宮村由紀子

15	後期	骨折・脱臼総論 まとめ復習	骨折時の固有症状、脱臼時の固有症状、後遺症や発生年齢などをこれまで学習した疾患に関連させて説明することができる。	宮村由紀子
16	後期	1～15 までの確認テスト	確認テスト	宮村由紀子
17	後期	テストの見直し	テストの見直し	宮村由紀子
成績評価方法		試験（2 回）による成績（100 点）により評価する。		
準備学習など		教科書に沿って作成したサブノートを使用して授業を行う。講義が終わっても国家試験対策の資料として活用できる。		

学科・年次	柔道整復科 3年
科目名	基礎柔道整復学VI
担当者	宮村 由紀子
単位数（時間数）	2単位(34時間17コマ)
学習方法	講義(座学)個人並びにグループ実習
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(柔道整復理論・外科学概論)

授業概要と目的
この科目では3年次における国家試験出題基準に基づき、柔道整復学を中心に講義を進行していく。またその過程において柔道整復総論を中心に行っていくが、外科学概論に関与する内容も行っていく。その際には柔道整復師として、柔道整復の施術所等で臨床経験のある者が、その経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・ 骨折総論① 骨折の概説、分類を理解する。	・ 各分類について理解し、性状による分類・程度のよる分類・方向による分類について説明できる。	宮村由紀子
2	前期	・ 骨折総論② 骨折の症状について理解する。	・ 固有症状や一般外傷症状について説明出来る。	宮村由紀子
3	前期	・ 骨折総論③ 骨折の合併症について理解する	・ 骨折の合併症について区別が出来る。 ・ 併発症、続発症、後遺症の内容を理解し内容をきちんと説明する。	宮村由紀子
4	前期	・ 骨折総論④ 小児・高齢者の骨折を理解する。	・ 小児・高齢者の骨折の特徴、治癒の状態について説明出来る。	宮村由紀子
5	前期	・ 中間テスト①とまとめ	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
6	前期	・ 筋損傷 総論、各疾患について理解する。	・ 筋損傷として出題率の高い疾患を中心理解を深める。 同時に外科学で出る関連疾患についても理解を深める。	宮村由紀子
7	前期	・ 腱損傷 総論、各疾患について理解する。	・ 筋損傷として出題率の高い疾患を中心理解を深める。 同時に外科学で出る関連疾患についても理解を深める。	宮村由紀子

8	前 期	・ 血管・神経損傷 総論、各疾患について理解する。	・ 血管・神経損傷として出題率の高い疾患を中心に理解を深める。 同時に外科学で出る関連疾患についても理解を深める。・	宮村由紀子
9	前 期	・ 皮膚損傷 総論、各疾患について理解する。	・ 皮膚損傷として出題率の高い疾患を中心に理解を深める。 同時に外科学で出る関連疾患についても理解を深める。	宮村由紀子
10	前 期	・ 中間テスト②とまとめ	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
11	前 期	・ 脱臼総論① 脱臼の概説、分類を理解する。	・ 各分類について理解し、性状による分類・程度のよる分類・方向による分類について説明できる。	宮村由紀子
12	前 期	・ 脱臼総論② 脱臼の症状について理解する。	・ 固有症状や一般外傷症状について説明出来る。	宮村由紀子
13	前 期	・ 脱臼総論③ 脱臼の合併症について理解する	・ 脱臼の合併症について区別が出来る。 ・ 併発症、続発症、後遺症の内容を理解し内容をきちんと説明する。	宮村由紀子
14	前 期	・ 中間テスト③とまとめ	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
15	前 期	・ 本試験前の復習①	・ 1～7 コマにて学んだ内容の復習を行う。	宮村由紀子
16	前 期	・ 本試験前の復習②	・ 8～14 コマにて学んだ内容の復習を行う。	宮村由紀子
17	前 期	・ 本試験とフィードバック	・ 本試験を振り返り、解説を行い、国家試験において何が足りないのか考察する。	宮村由紀子
成績評価方法		授業始めに行う確認テストを平均し、4割を反映する。本試験は100点満点中6割を反映し合計する。		
準備学習など		国家試験にちなんだ内容を行う予定であり、必修項目を中心に講義を進めることから常日頃より必修として出題される内容を復習する必要がある。		

学科・年次	柔道整復科 3年
科目名	基礎柔道整復学Ⅶ
担当者	宮村 由紀子
単位数（時間数）	2単位(34時間17コマ)
学習方法	講義(座学)個人並びにグループ実習
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(柔道整復理論、整形外科学)

授業概要と目的
この科目では3年次における国家試験出題基準に基づき、柔道整復学を中心に講義を進行していく。毎講義で問題を演習し傾向やキーワードを自ら理解を深められるようにする。その際には柔道整復師として、柔道整復の施術所等で臨床経験のある者が、その経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期	・ 必修問題対策の問題演習① ・ 演習後の解説	・ 必修問題の傾向について学び説明出来る。 ・ 正答率の低い問題を理解する。	宮村由紀子
2	後 期	・ 必修問題対策の問題演習② ・ 演習後の解説	・ 必修問題の傾向について学び説明出来る。 ・ 正答率の低い問題を理解する。	宮村由紀子
3	後 期	・ 必修問題対策の問題演習③	・ 必修問題の傾向について学び説明出来る。 ・ 正答率の低い問題を理解する。	宮村由紀子
4	後 期	・ 必修問題対策の問題演習④ ・ 演習後の解説	・ 必修問題の傾向について学び説明出来る。 正答率の低い問題を理解する。	宮村由紀子
5	後 期	・ 中間テスト①	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
6	後 期	・ 問題演習①（臨床問題） ・ 演習後の解説	・ 臨床問題を解く際のキーワード等に触れて何を問われているか理解を深める。	宮村由紀子
7	後 期	・ 問題演習②（臨床問題） ・ 演習後の解説	・ 臨床問題を解く際のキーワード等に触れて何を問われているか理解を深める。	宮村由紀子
8	後 期	・ 問題演習③（臨床問題） ・ 演習後の解説	・ 臨床問題を解く際のキーワード等に触れて何を問われているか理解を深める。	宮村由紀子

9	後 期	・問題演習④（臨床問題） ・演習後の解説	・ 臨床問題を解く際のキーワード等に触れて何を問われているか理解を深める。	宮村由紀子
10	後 期	・ 中間テスト②	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
11	後 期	・ 問題演習①（上肢各論） ・演習後の解説	・ 上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の混合問題を演習し各自の得意、苦手を明確にする。 ・ 全体的に正答率の低い問題に関しては改めて解説を実施し理解を深める	宮村由紀子
12	後 期	・ 問題演習②（下肢各論） ・演習後の解説	・ 下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の混合問題を演習し各自の得意、苦手を明確にする。 ・ 全体的に正答率の低い問題に関しては改めて解説を実施し理解を深める	宮村由紀子
13	後 期	・ 問題演習③（頭部体幹各論） ・演習後の解説	・ 頭部、体幹の骨折、脱臼、軟部組織損傷の混合問題を演習し各自の得意、苦手を明確にする。 ・ 全体的に正答率の低い問題に関しては改めて解説を実施し理解を深め	宮村由紀子
14	後 期	・ 問題演習③（総合） ・演習後の解説	・ 柔道整復理論や整形外科の分野において重なる疾患を中心とした問題について演習しその後、重要点の理解を深める。	宮村由紀子
15	後 期	・ 中間テスト③	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
16	後 期	・ 本試験前の復習	・ 1～15 コマにて学んだ内容の復習を行う。	宮村由紀子
17	後 期	・ 本試験 ・ フィードバック	・ 本試験を振り返り、解説を行い、国家試験において何が足りないのか考察する。	宮村由紀子
成績評価方法		3 回の中間テストと授業始めに行う確認テストを平均し、4 割を反映する。本試験は 100 点満点中 6 割を反映し合計する。		
準備学習など		国家試験にちなんだ内容を行う予定であり、必修項目を中心に講義を進めることから常日頃より必修として出題される内容を復習する必要がある。		

学科・年次	柔道整復科 3年
科目名	基礎柔道整復学Ⅷ
担当者	宮村 由紀子
単位数（時間数）	2単位(34時間 17コマ)
学習方法	講義(座学)個人並びにグループ実習
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(柔道整復理論・整形外科学・リハビリテーション概論)

授業概要と目的
この科目では3年次における国家試験出題基準に基づき、柔道整復学を中心に講義を進行していく。またその過程において軟部組織損傷を中心に行ってはいくが、途中にて整形外科学・リハビリテーション概論に関与する内容も行っていく。その際には柔道整復師として、柔道整復の施術所等で臨床経験のある者が、その経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・ 鎖骨の脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 肩鎖関節脱臼と胸鎖関節脱臼の特徴について説明出来る。 ・ 国家試験の重要点を理解できている。	宮村由紀子
2	前期	・ 肩関節脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 肩関節脱臼の特徴について説明出来る。 ・ 国家試験の重要点を理解できている。	宮村由紀子
3	前期	・ 肘関節脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 肘関節脱臼の特徴について説明出来る。 ・ 国家試験の重要点を理解できている。	宮村由紀子
4	前期	・ 手関節、手指の脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 肩関節脱臼の特徴について説明出来る。 ・ 国家試験の重要点を理解できている	宮村由紀子
5	前期	・ 中間テスト①とまとめ	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
6	前期	・ 股関節脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 股関節脱臼の特徴について説明出来る。 国家試験の重要点を理解できている	宮村由紀子
7	前期	・ 膝蓋骨脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 膝蓋骨脱臼の特徴について説明出来る。 国家試験の重要点を理解できている	宮村由紀子

8	前 期	・ 膝関節脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 膝関節脱臼の特徴について説明出来る。 国家試験の重要点を理解できている	宮村由紀子
9	前 期	・ 足関節脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 足関節脱臼の特徴について説明出来る。 国家試験の重要点を理解できている	宮村由紀子
10	前 期	・ 足部の関節、足趾の脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 足部の関節脱臼、足趾の脱臼の特徴について説明出来る。 国家試験の重要点を理解できている	宮村由紀子
11	前 期	・ 中間テスト②とまとめ	・ 今まで学んだ内容を確認する。また 試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
12	前 期	・ 脊椎脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 脊椎脱臼の特徴について説明出来る。 国家試験の重要点を理解できている	宮村由紀子
13	前 期	・ 顎関節脱臼 国試重要ポイントの理解	・ 顎関節脱臼の特徴について説明出来る。 国家試験の重要点を理解できている	宮村由紀子
14	前 期	・ 中間テスト③とまとめ	・ 今まで学んだ内容を確認する。また 試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
15	前 期	・ 問題演習と解説	・ 今まで学んだ内容が理解できているか 確認する	宮村由紀子
16	前 期	・ 問題演習の復習	・ テスト前に問題演習で正答率の低い問題について解説し理解をする。	宮村由紀子
17	前 期	・ 本試験 ・ フィードバック	・ 本試験を振り返り、解説を行い、 国家試験において何が足りないのか 考察する。	宮村由紀子
成績評価方法		3 回の中間テストと授業始めに行う確認テストを平均し、4 割を反映する。本試験は 100 点満点 中 6 割を反映し合計する。		
準備学習など		国家試験にちなんだ内容を行う予定であり、必修項目を中心に講義を進めることから常日頃 より必修として出題される内容を復習する必要がある。		

学科・年次	柔道整復科 3 年次
科目名	基礎柔道整復学IX
担当者	宮村 由紀子
単位数（時間数）	2 単位(34 時間 17 コマ)
学習方法	講義(座学)個人並びにグループ実習
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(柔道整復理論・関係法規・社会保障と柔道整復師の職業倫理)

授業概要と目的
この科目では 3 年次における国家試験出題基準に基づき、柔道整復学を中心に講義を進行していく。またその過程において概要及び歴史について学び、途中にて関係法規、職業倫理一に関与する内容も行っていく。その際には柔道整復師として、柔道整復の施術所等で臨床経験のある者が、その経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前 期	・ 柔道整復と柔道 柔道整復師の歴史について 理解する。	・ 柔道整復師における武道の精神とともに 柔道の関係性について知識を深める。 また国家試験出題基準である柔道の歴史 について理解する。	宮村由紀子
2	前 期	・ 柔道整復と柔道 柔道の礼法・坐礼の理論について 理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道における 礼法、坐礼の方法について再度確認し 遅滞なく行えるようにする。	宮村由紀子
3	前 期	・ 柔道整復と柔道 柔道の武道の精神、技の理論につ いて理解する。	・ 国家試験出題基準である、嘉納治五郎 が残した精力善用、自他共栄の言葉や 武道の精神である「道」「禅」「行」等 について把握する。	宮村由紀子
4	前 期	・ 柔道整復と柔道 柔道の前回り受け身と技の理論 について理解する。	・ 前回り受け身の動作を解析し、言葉と して説明できるようにする。 ・ 技の種類について知識を深める。	宮村由紀子
5	前 期	・ 中間テスト①	・ 今まで学んだ内容を確認する。また 試験後にて解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子

6	前 期	・ 柔道整復師と国民医療費の関連について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師として必要な知識として国民医療費の現状について知識を深める。	宮村由紀子
7	前 期	・ 柔道整復師と健康保険の関連について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師に関わる健康保険の種類・内容について知識を深める。	宮村由紀子
8	前 期	・ 柔道整復師と療養費について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の療養費の現状について知識を深める。	宮村由紀子
9	前 期	・ 柔道整復師と受領委任払い制度について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の療養費における受領委任払いの仕組みについて知識を深める。	宮村由紀子
10	前 期	・ 中間テスト②	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後に解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
11	前 期	・ 柔道整復師の業務範囲について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の業務範囲について関係法規にて記載される柔道整復師法について知識を深める。	宮村由紀子
12	前 期	・ 柔道整復師の業務範囲について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の業務範囲について関係法規に記載される欠格事由や罰則について知識を深める。	宮村由紀子
13	前 期	・ 柔道整復師の業務範囲について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の業務範囲について記載される関係法規について施術所や広告について知識を深める。	宮村由紀子
14	前 期	・ 柔道整復師の業務範囲について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の業務範囲について記載される関係法規について法の体系について知識を深める。	宮村由紀子
15	前 期	・ 中間テスト③	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後に解説を行い、理解を深める。	宮村由紀子
16	前 期	・ 本試験前の復習	・ 1～15 コマにて学んだ内容の復習を行う。	宮村由紀子
17	前 期	・ 本試験とフィードバック	・ 本試験を振り返り、解説を行い、国家試験において何が足りないのか考察する。	宮村由紀子

成績評価方法	3 回の中間テストと授業始めに行う確認テストを平均し、4 割を反映する。本試験は 100 点満点中 6 割を反映し合計する。
準備学習など	国家試験にちなんだ内容を行う予定であり、必修項目を中心に講義を進めることから常日頃より必修として出題される内容を復習する必要がある。

学科・年次	柔道整復科 3 学年
科目名	柔整実技ⅠA
担当者	小笠原 史明・木村 友飛
単位数（時間数）	1 単位（34 時間 17 コマ 前期）
学習方法	実技（認定実技・骨折の整復と固定法・軟部組織損傷の固定法）
教科書・参考書	柔道整復学理論編および実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
認定実技審査は卒業の判定に当たり、学生の実技能力を審査することを目的とする重要な試験である。認定実技審査に向けて柔道整復実技を学ぶ。臨床を踏まえた骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法をデモンストレーションし、グループワーク、反復練習などを行う。そして必要な技能を口頭で説明できるようにする。担当教員は柔道整復師として実務経験のある柔道整復科専科教員が務め、柔整実技ⅢA と 2 コマ合わせて実技授業を実施する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	ガイダンス 認定実技審査要領説明	認定実技審査の目的、意義について理解する	小笠原史明 木村友飛
2	前期	①鎖骨定型的骨折〔転位のある定型的骨折〕の診察および整復法	鎖骨定型的骨折の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
3	前期	②鎖骨定型的骨折〔転位のある定型的骨折〕の診察および整復法	鎖骨定型的骨折の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
4	前期	①上腕骨外科頸骨折〔転位のある外転型骨折〕の診察および整復法	上腕骨外科頸骨折の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
5	前期	②上腕骨外科頸骨折〔転位のある外転型骨折〕の診察および整復法	上腕骨外科頸骨折の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
6	前期	①コーレス骨折の診察および整復法	コーレス骨折の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
7	前期	②コーレス骨折の診察および整復法	コーレス骨折の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
8	前期	①肩鎖関節上方脱臼の診察および整復法	肩鎖関節上方脱臼の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
9	前期	②肩鎖関節上方脱臼の診察および整復法	肩鎖関節上方脱臼の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
10	前期	①肩関節前方烏口下脱臼の診察および整復法	肩関節前方烏口下脱臼の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛

			る	
11	前期	②肩関節前方烏口下脱臼の診察および整復法	肩関節前方烏口下脱臼の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
12	前期	①肘関節後方脱臼の診察および整復法	肘関節後方脱臼の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
13	前期	②肘関節後方脱臼の診察および整復法	肘関節後方脱臼の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
14	前期	①肘内障の診察および整復法	肘内障の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
15	前期	②肘内障の診察および整復法	肘内障の診察および整復法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
16	前期	肩腱板損傷の診察及び検査法	肩腱板損傷の診察及び検査法を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
17	前期	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査法	上腕二頭筋長頭腱損傷を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
評価方法		筆記試験および出欠席の状況、実技への参加態度により評価する。		
準備学習など		白衣、実習靴、実技バッグが必須		

学科・年次	柔道整復学科 3 学年
科目名	柔整実技 IB
担当者	小笠原 史明
単位数（時間数）	1 単位（34 時間 17 コマ）
学習方法	認定実技、骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法と固定法
教科書・参考書	柔道整復学理論編および実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
認定実技審査は卒業の判定に当たり、学生の実技能力を審査することを目的とする重要な試験である。認定実技審査に向けて柔道整復実技を学ぶ。臨床を踏まえた骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法、固定法をデモンストレーションし、グループワーク、反復練習などを行う。そして必要な技能を口頭で説明できるようにする。担当教員は柔道整復師として実務経験のある柔道整復科専科教員が務め、柔整実技ⅢB と 2 コマ合わせて実技授業を実施する。9 コマ目以降は触診法と施術を組み合わせた臨床実技を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	①手第 2 指 PIP 関節背側脱臼〔アルミ副子背側固定〕	手第 2 指 PIP 関節背側脱臼の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
2	後期	①アキレス腱断裂〔クラーメル副子固定〕	アキレス腱断裂の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
3	後期	①足関節外側靭帯損傷〔局所副子固定〕	足関節外側靭帯損傷の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
4	後期	①膝関節内側側副靭帯損傷〔X サポートテープ固定〕	膝関節内側側副靭帯損傷の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
5	後期	①足関節外側靭帯損傷〔バスケットウィーブテープ固定〕	足関節外側靭帯損傷の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
6	後期	①足関節外側靭帯損傷〔フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定〕	足関節外側靭帯損傷の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
7	後期	総合練習	学習した骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法、固定法を完全にできるようにする。	小笠原史明
8	後期	総合練習	学習した骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法、固定法を完全にできるようにする。	小笠原史明

9	後期	①筋腱および靱帯等の軟部組織損傷についての総論 ・各軟部組織の相違点の理解	各軟部組織の組織学的特徴、治癒過程について理解する。	小笠原史明
10	後期	②筋腱および靱帯等の軟部組織損傷についての総論 ・各軟部組織の相違点の理解	各軟部組織の組織学的特徴、治癒過程について理解する。	小笠原史明
11	後期	足関節捻挫 ・足関節靱帯損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. 足関節靱帯損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. 足関節靱帯損傷における好発部位の触察ができる。	小笠原史明
12	後期	ハムストリングス損傷 ・ハムストリングス損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. ハムストリングス損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. ハムストリングス損傷における好発部位の触察ができる。	小笠原史明
13	後期	大腿四頭筋損傷 ・大腿四頭筋損傷と施術に関する理論的背景および施術方法の理解	1. 大腿四頭筋損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. 大腿四頭筋損傷における好発部位の触察ができる。	小笠原史明
14	後期	腰部捻挫 ・腰部捻挫と施術に関する理論的背景の理解	1. 腰部捻挫における機序、疫学を座学で理解する。 2. 腰部捻挫における好発部位の触察ができる。	小笠原史明
15	後期	膝靱帯および半月板損傷 ・膝靱帯および半月板損傷と施術に関する理論的背景および施術方法の理解	1. 好発部位について、超音波エコーでの観察が実践できる。 2. 膝靱帯および半月板損傷に適した施術方法と固定方法が選択できる。	小笠原史明
16	後期	下腿三頭筋損傷 ・下腿三頭筋損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. 下腿三頭筋損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. 下腿三頭筋損傷における好発部位の触察ができる。	小笠原史明
17	後期	肩関節および周囲の損傷 ・肩関節および周囲の損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. 肩関節および周囲の損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. 肩関節および周囲の損傷における好発部位の触察ができる。	小笠原史明
成績評価方法		筆記試験および出欠席の状況、実技への参加態度により評価する。 及第点に及ばなかった者には再試験を課す。		
準備学習など		運動器の解剖学について復習をすると理解しやすい。		

学科・年次	柔道整復学科 3 学年
科目名	柔整実技 I C
担当者	木村友飛
単位数（時間数）	1 単位（34 時間）
学習方法	実技および講義
教科書・参考書	柔道整復学・理論編（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂） 柔道整復学・実技編（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂） 包帯固定学（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂）

授業概要と目的
講師が臨床での経験を踏まえ、代表的な傷病についての知識や技能を指導する。柔道整復師に必要な、診断のための知識や検査法などを指導するほか、技術的なものだけではなく、実践的に負傷者への安全で愛護的な対応など、骨折、脱臼、軟部組織損傷の代表的な傷病を課題として、診断や整復、徒手検査等を中心に、実際に安全に行うためにはどのようにするべきかの、知識と技能を身につけることを目標とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	1. ガイダンス 骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する診断に必要な知識、技能を理解する。	1. ガイダンスにより骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する診断に必要な知識、技能について、目標を知ってもらう。 また、負傷者に対する注意事項など、実践的な知識を知ってもらう。	木村友飛
2	前期	1. 鎖骨定型的骨折【転位のある定型的骨折】 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、骨折であることの判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
3	前期	1. 上腕骨外科頸骨折【転位のある外転型骨折】 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、骨折であることの判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛

4	前期	1. コーレス骨折【屈曲整復法あるいは牽引直圧整復法】 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、骨折であることの判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
5	前期	1. 肩鎖関節上方脱臼 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、脱臼であることの判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
6	前期	1. 肩関節前方脱臼（烏口下脱臼）【コッヘル法またはヒポクラテス法】 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、脱臼であることの判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
7	前期	1. 肘関節後方脱臼 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、脱臼であることの判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
8	前期	1. 肘内障 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、脱臼であることの判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。 5. 小児特有の疾患について学ぶ。	木村友飛
9	前期	1. 肩腱板損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。	木村友飛

			険性を知る。 3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	
10	前期	1. 上腕三頭筋長頭腱損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
11	前期	1. ハムストリング損傷（肉ばなれ） 2. 大腿四頭筋打撲 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
12	前期	1. 膝関節側副靱帯損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
13	前期	1. 膝関節十字靱帯損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
14	前期	1. 膝関節半月板損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技	1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。	木村友飛

		能を理解する。	2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	
15	前期	1. 下腿三頭筋損傷（肉ばなれ）傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。 2. 足関節外側靱帯損傷傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	木村友飛
16	前期	1. 試験（評価）	整復や軟部組織損傷に対する徒手検査に対するまとめとして、筆記試験を行い、整復、固定についての説明ができることを確認する。	木村友飛
17	前期	1. 実技総括	整復や軟部組織損傷に対する徒手検査のまとめとして、筆記試験を行い、整復、徒手検査についての説明ができることを確認する。	木村友飛
成績評価方法		筆記試験は、記述式あるいは4択問題にて100点満点での評価をする。あるいは課題の提出により100点満点の評価をする。		
準備学習など		1. 実技の授業ですので、白衣を忘れず、身だしなみには注意を図ってください。 2. 包帯等の実技に使用するものは、自己管理すること、または共有して使用するものについては、丁寧に扱うこと。 3. 練習相手への配慮を忘れず、真摯な態度で臨むこと。		

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	柔整実技ⅡA
担当者	鬼頭 宏
単位数（時間数）	1単位（34時間）
学習方法	実習講義による
教科書・参考書	柔道整復学理論編、柔道整復学実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
柔道整復師である講師の接骨院での経験を踏まえ、臨床で見かける脱臼の対応について学ぶ。脱臼は骨折に次いで重要な項目であり、脱臼総論の内容も加味しながら各部の脱臼について学んでいきたい。適宜骨折、軟損についても触れていく。認定実技審査の脱臼について学んでいく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・認定実技審査の実施方法について理解する。	1. 認定実技審査が行われる骨折・脱臼・軟損の実施傷病を言うことが出来る。 2. 認定実技審査の合格基準について整復実技、柔道実技とも答えることが出来る。	鬼頭 宏
2	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩関節脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肩関節前方脱臼についての質問に答えることが出来る。	鬼頭 宏
3	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩関節脱臼）について理解する。	1. 肩関節脱前方臼の整復について説明し、実際に整復を行うことが出来る。	鬼頭 宏
4	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘関節脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肘関節後方脱臼についての質問に答えることが出来る。	鬼頭 宏
5	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘関節脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の整復について説明し、実際に整復を行うことが出来る。	鬼頭 宏
6	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩鎖関節脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肩鎖関節上方脱臼についての質問に答えることが出来る。	鬼頭 宏

7	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩鎖関節脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の整復について説明し、実際に整復を行うことが出来る。	鬼頭 宏
8	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘内障）について理解する。	1. 肘内障の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肘内障についての質問に答えることが出来る。	鬼頭 宏
9	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘内障）について理解する。	1. 肘内障の整復について説明し、実際に整復を行うことが出来る。	鬼頭 宏
10	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩関節脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の固定について説明し、固定の手順を示すことが出来る。	鬼頭 宏
11	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩関節脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
12	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘関節脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の固定について説明し、固定の手順を示すことが出来る。	鬼頭 宏
13	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘肩関節脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
14	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩鎖関節脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
15	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（第2指PIP関節脱臼）について理解する。	1. 第2指PIP関節背側脱臼の固定について説明し、固定の手順を示すことが出来る。	鬼頭 宏
16	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（第2指PIP関節脱臼）について理解する。	1. 第2指PIP関節背側脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
17	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技について理解する。	1. 認定実技審査の脱臼の出題で、整復・固定の出題とも行うことが出来る。 2. 認定実技審査の脱臼の出題で、口頭質問に対して答えることが出来る。	鬼頭 宏
成績評価方法		試験の成績により評価する（100%）。		

準備学習など	各項目を学習した後、確認するために当日中に教科書や配布したプリントを読んでもおくことを勧める。整復固定の実技はイメージトレーニングが有効であるので、時間のある時には（特に認定実技科目）イメージトレーニングを行い、次回の実技実習に臨んでほしい。
--------	---

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	柔整実技ⅡB
担当者	鬼頭 宏
単位数（時間数）	1単位（34時間）
学習方法	実習講義による
教科書・参考書	柔道整復学理論編、柔道整復学実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
柔道整復師である講師の接骨院での経験を踏まえ、臨床で見かける脱臼の対応について学ぶ。脱臼は骨折に次いで重要な項目であり、脱臼総論の内容も加味しながら各部の脱臼について学んでいきたい。適宜骨折、軟損についても触れていく。また認定実技審査の脱臼についても学んでいく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（顎関節前方脱臼）について理解する。	1. 顎関節前方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 顎関節前方脱臼の整復について実際にを行うことが出来る。	鬼頭 宏
2	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（顎関節前方脱臼）について理解する。	1. 顎関節前方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
3	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肩鎖関節上方脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肩鎖関節上方脱臼の整復について実際にを行うことが出来る。	鬼頭 宏
4	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肩鎖関節上方脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
5	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肩関節前方脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肩関節前方脱臼の整復について実際にを行うことが出来る。	鬼頭 宏
6	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肩関節前方脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏

7	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (肘関節後方脱臼)について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の整復について説明し、 整復の手順を示すことが出来る。 2. 肘関節後方脱臼の整復について実際に 行うことが出来る。	鬼頭 宏
8	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (肘関節後方脱臼)について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の固定について説明し、 実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
9	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (月状骨掌側脱臼)について理解する。	1. 月状骨掌側脱臼の整復について説明し、 整復の手順を示すことが出来る。 2. 月状骨掌側脱臼の整復について実際に 行うことが出来る。	鬼頭 宏
10	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (月状骨掌側脱臼)について理解する。	1. 月状骨掌側脱臼の固定について説明し、 実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
11	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (第1指MP関節背側脱臼)につ いて理解する。	1. 第1指MP関節背側脱臼の整復につい て説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 第1指MP関節背側脱臼の整復につい て実際にを行うことが出来る。	鬼頭 宏
12	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (第1指MP関節背側脱臼)につ いて理解する。	1. 第1指MP関節背側脱臼の固定につい て説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
13	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (第2指PIP関節背側脱臼)につ いて理解する。	1. 第2指PIP関節背側脱臼の整復につい て説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 第2指PIP関節背側脱臼の整復につい て実際にを行うことが出来る。	鬼頭 宏
14	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (第2指PIP関節背側脱臼)につ いて理解する。	1. 第2指PIP関節背側脱臼の固定につい て説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
15	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (股関節後方脱臼)について理解 する。	1. 股関節後方脱臼の整復について説明し、 整復の手順を示すことが出来る。 2. 股関節後方脱臼の整復について実際に 行うことが出来る。	鬼頭 宏
16	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技 (股関節後方脱臼)について理解 する。	1. 股関節後方脱臼の固定について説明し、 実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
17	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技に ついて理解する。	1. 臨床でよくみられる脱臼実技の整復に ついて実際にを行うことが出来る。 2. 臨床でよくみられる脱臼実技の固定に ついて実際にを行うことが出来る。	鬼頭 宏

績評価方法	試験の成績により評価する（100％）。
準備学習など	各項目を学習した後、確認するために当日中に教科書や配布したプリントを読んでおくことを勧める。整復固定の実技はイメージトレーニングが有効であるので、時間のある時には（特に認定実技科目）イメージトレーニングを行い、次回の実技実習に臨んでほしい。

学科・年次	柔道整復科 3年生
科目名	柔整実技ⅡC
担当者	鈴木 雅夕
単位数（時間数）	1単位（17コマ 34時間 後期）
学習方法	実技および講義
教科書・参考書	柔道整復学・理論編（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂） 柔道整復学・実技編（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂） 包帯固定学（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂）

授業概要と目的
講師が接骨院での経験を踏まえ、代表的な傷病についての知識や技能を指導する。柔道整復師に必要な、固定や傷病の処置のための知識や対処法などを指導するほか、技術的なものだけではなく、実践的に負傷者への安全で愛護的な対応など、骨折、脱臼、軟部組織損傷の代表的な傷病を課題として、固定、テーピング等を中心に、実際に安全に行うためにはどのようにすべきかの、知識と技能を身につけることを目標とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	1. ガイダンス 骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する固定等に関する知識、技能を理解する。	1. ガイダンスにより骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する固定等に必要な知識、技能について、目標を知ってもらう。 また、負傷者に対する注意事項など、実践的な知識を知ってもらう。	鈴木 雅夕
2	後期	1. 鎖骨骨折【リング固定又は8字帯もしくは Sayre テープ固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
3	後期	1. 上腕骨骨幹部骨折【ミッドドルフ三角副手固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕

4	後期	1. コーレス骨折【クラーメル副子・三角巾固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
5	後期	1. 第5指中手骨頸部骨折【アルミ副手掌側固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。 2. 手第2指 PIP 関節背側脱臼【アルミ副手背側固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
6	後期	1. 下腿骨骨幹部骨折【クラーメル副手固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
7	後期	1. 肋骨骨折【さらしと厚紙副手固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
8	後期	1. 肩鎖関節上方脱臼【テープ固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕

9	後期	1. 肩関節前方脱臼【局所副子・三角巾固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
10	後期	1. 肘関節後方脱臼【クラーメル副子・三角巾固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
11	後期	1. アキレス腱断裂【クラーメル副手固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
12	後期	1. 足関節外側靭帯損傷【局所副手固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
13	後期	1. 膝関節内側側副靭帯損傷【Xサポートテープ固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
14	後期	1. 足関節外側靭帯損傷【バスケットウィーブ固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。	鈴木 雅夕

		2. 足関節外側靱帯損傷【フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	
15	後期	1. 固定時及びテーピング固定時の注意事項 固定材料ごとに、その取扱いの違いを理解する。	1. 固定に必要な材料に対する使用する際の注意しなければならないことを理解する。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性に配慮した材料に選択ができるか。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
16	後期	1. 試験（評価）	固定やテーピングに対するまとめとして、筆記試験を行い、固定、テーピングについての説明ができることを確認する。	鈴木 雅夕
17	後期	1. 実技総括	固定やテーピングに対するまとめとして、筆記試験を行い、整固定、テーピングについての説明ができることを確認する。	鈴木 雅夕
成績評価方法		筆記試験は、記述式あるいは4択問題にて100点満点の評価をする。あるいは課題の提出により100点満点の評価をする。		
準備学習など		1. 実技の授業ですので、白衣を忘れず、身だしなみには注意を図ってください。 2. 包帯等の実技に使用するものは、自己管理すること、または共有して使用するものについては、丁寧に扱うこと。 3. 練習相手への配慮を忘れず、真摯な態度で臨むこと。		

学科・年次	柔道整復学科 3 学年
科目名	柔整実技ⅢA
担当者	小笠原 史明・木村 友飛
単位数（時間数）	1 単位（34 時間 17 コマ 前期）
学習方法	認定実技、骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法
教科書・参考書	柔道整復学理論編および実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
認定実技審査は卒業の判定に当たり、学生の実技能力を審査することを目的とする重要な試験である。認定実技審査に向けて柔道整復実技を学ぶ。臨床を踏まえた骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法、固定法をデモンストレーションし、グループワーク、反復練習などを行う。そして必要な技能を口頭で説明できるようにする。担当教員は柔道整復師として実務経験のある柔道整復科専科教員が務め、柔整実技ⅠAと2コマ合わせて実技授業を実施する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	ハムストリングス損傷（肉ばなれ）	ハムストリングス損傷（肉ばなれ）を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
2	前期	大腿四頭筋打撲	大腿四頭筋打撲を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
3	前期	膝関節側副靱帯損傷	膝関節側副靱帯損傷を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
4	前期	膝関節十字靱帯損傷	膝関節十字靱帯損傷を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
5	前期	膝関節半月板損傷	膝関節半月板損傷を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
6	前期	下腿三頭筋損傷（肉ばなれ）	下腿三頭筋損傷（肉ばなれ）を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
7	前期	足関節外側靱帯損傷	足関節外側靱帯損傷を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
8	前期	総合練習・チェックテスト	学習した診察及び整復法、検査法を完全にできるようにする。	小笠原史明 木村友飛
9	前期	鎖骨骨折〔Sayre テープ固定〕	鎖骨骨折の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
10	前期	上腕骨骨幹部骨折〔ミッドドルフ三角副子固定〕	上腕骨骨幹部骨折の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛

11	前期	コーレス骨折〔クラーメル副子と局所副子・三角巾固定〕	コーレス骨折の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
12	前期	第 5 中手骨頸部骨折〔アルミ副子掌側固定〕	第 5 中手骨頸部骨折の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
13	前期	下腿骨骨幹部骨折〔クラーメル副子固定〕	下腿骨骨幹部骨折の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
14	前期	肋骨骨折〔さらしと厚紙副子固定〕	肋骨骨折の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
15	前期	肩鎖関節上方脱臼〔テープ固定〕	肩鎖関節上方脱臼の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
16	前期	肩関節前方脱臼〔局所副子・三角巾固定〕	肩関節前方脱臼の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
17	前期	肘関節後方脱臼〔クラーメル副子・三角巾固定〕	の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明 木村友飛
評価方法		筆記試験および出欠席の状況、実技への参加態度により評価する。		
準備学習など		白衣、実習靴、実技バッグが必須		

学科・年次	柔道整復科・3年次
科目名	柔整実技ⅢB
担当者	小笠原 史明
単位数（時間数）	1単位（34）
学習方法	認定実技、骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法と固定法
教科書・参考書	柔道整復学理論編および実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
認定実技審査は卒業の判定に当たり、学生の実技能力を審査することを目的とする重要な試験である。認定実技審査に向けて柔道整復実技を学ぶ。臨床を踏まえた骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法、固定法をデモンストレーションし、グループワーク、反復練習などを行う。そして必要な技能を口頭で説明できるようにする。担当教員は柔道整復師として実務経験のある柔道整復科専科教員が務め、柔整実技ⅠBと2コマ合わせて実技授業を実施する。9コマ目以降は触診法と施術を組み合わせた臨床実技を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	②手第2指 PIP 関節背側脱臼〔アルミ副子背側固定〕	手第2指 PIP 関節背側脱臼の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
2	後期	②アキレス腱断裂〔クラーメル副子固定〕	アキレス腱断裂の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
3	後期	②足関節外側靭帯損傷〔局所副子固定〕	足関節外側靭帯損傷の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
4	後期	②膝関節内側側副靭帯損傷〔Xサポートテープ固定〕	膝関節内側側副靭帯損傷の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
5	後期	②足関節外側靭帯損傷〔バスケットウィーブテープ固定〕	足関節外側靭帯損傷の固定を口頭で説明しながら実施できるようにする	小笠原史明
6	後期	総合練習	学習した骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法、固定法を完全にできるようにする。	小笠原史明
7	後期	総合練習	学習した骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法、固定法を完全にできるようにする。	小笠原史明
8	後期	総合練習	学習した骨折・脱臼・軟部組織損傷の診察及び整復法、検査法、固定法を完全にできるようにする。	小笠原史明
9	後期	①筋腱および靭帯等の軟部組織	各軟部組織の組織学的特徴、治癒過程につ	小笠原史明

		損傷についての総論 ・各軟部組織の相違点の理解	いて理解する。	
10	後期	②筋腱および靭帯等の軟部組織 損傷についての総論 ・各軟部組織の相違点の理解	各軟部組織の組織学的特徴、治癒過程につ いて理解する。	小笠原史明
11	後期	足関節捻挫 ・足関節靭帯損傷と施術に関する 理論的背景の理解	1. 足関節靭帯損傷における機序、疫学を座 学で理解する。 2. 足関節靭帯損傷における好発部位の触 察ができる。	小笠原史明
12	後期	ハムストリングス損傷 ・ハムストリングス損傷と施術に 関する理論的背景の理解	1. ハムストリングス損傷における機序、疫 学を座学で理解する。 2. ハムストリングス損傷における好発部 位の触察ができる。	小笠原史明
13	後期	大腿四頭筋損傷 ・大腿四頭筋損傷と施術に関する 理論的背景および施術方法の理 解	1. 大腿四頭筋損傷における機序、疫学を座 学で理解する。 2. 大腿四頭筋損傷における好発部位の触 察ができる。	小笠原史明
14	後期	腰部捻挫 ・腰部捻挫と施術に関する理論的 背景の理解	1. 腰部捻挫における機序、疫学を座学で理 解する。 2. 腰部捻挫における好発部位の触察がで きる。	小笠原史明
15	後期	膝靭帯および半月板損傷 ・膝靭帯および半月板損傷と施術 に関する理論的背景および施術 方法の理解	1. 好発部位について、超音波エコーでの観 察が実践できる。 2. 膝靭帯および半月板損傷に適した施術 方法と固定方法が選択できる。	小笠原史明
16	後期	下腿三頭筋損傷 ・下腿三頭筋損傷と施術に関する 理論的背景の理解	1. 下腿三頭筋損傷における機序、疫学を座 学で理解する。 2. 下腿三頭筋損傷における好発部位の触 察ができる。	小笠原史明
17	後期	肩関節および周囲の損傷 ・肩関節および周囲の損傷と施術 に関する理論的背景の理解	1. 肩関節および周囲の損傷における機序、 疫学を座学で理解する。 2. 肩関節および周囲の損傷における好発 部位の触察ができる。	小笠原史明
評価方法		筆記試験および出欠席の状況、実技への参加態度により評価する。 及第点に及ばなかった者には再試験を課す。		
準備学習など		運動器の解剖学について復習をすると理解しやすい。		

--	--

学科・年次	柔道整復科・3 学年
科目名	柔整実技ⅢC
担当者	木村友飛
単位数（時間数）	1 単位（34 時間 17 コマ 前期）
学習方法	講義（座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション）、個人ならびにグループ実習
教科書・参考書	公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書（柔道整復学理論編・実技編、リハビリテーション医学、運動学、解剖学、生理学、一般臨床医学） 理学療法評価学（金原出版）、診察と手技が見える（メディックメディア）

授業概要と目的				
柔整実技ⅢC では、柔道整復師認定実技審査項目を中心に、検査方法の基礎、臨地実習評価項目、柔道整復師国家試験問題に相当する知識や技術を研鑽する。「評価に始まり評価に終わる」と称されるほど、疾患による、「運動機能障害」について学び、疾患（障害）に対する柔道整復学理論・実技の適応となる疾患について、柔道整復師に必要な運動器評価、認定実技審査に関する知識と卒業後の臨床に必要な見識を身につけることを目的とする。1 学年で学んだ基本的な知識（解剖学・生理学・運動学等）や、2 年次に行った実習内容や、「評価法」の基礎を復習する。また、課題のデータ収集から身体の現症について評価、考察し、身体の正常運動と病態運動との比較説明や治療計画の立案、治療シミュレーションやプレゼンテーションを行う。整形外科やリハビリテーション科で実務経験のある認定実技審査員資格を保持する柔道整復学専科教員（柔道整復師・理学療法士）が担当する。				
回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	1.ガイダンス 認定実技対策と国対 1(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛
2	前期	2.認定実技対策と国対 2(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛

3	前期	3. 認定実技対策と国対 3(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛
4	前期	4. 認定実技対策と国対 4(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛
5	後期	5. 認定実技対策と国対 5(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛
6	前期	6. 認定実技対策と国対 6(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛

7	前期	7. 認定実技対策と国対 7(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛
8	前期	8. 認定実技対策と国対 8(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛
9	前期	9. 認定実技対策と国対 9(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛
10	後期	10. 認定実技対策と国対 10(国試対策)	① これまで学習した疾患の特徴について口頭実技を交えて説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	木村友飛
11	前期	11. 認定実技対策と国対 11(国試対策)	① 身体評価（検査法・測定法）の実施に関する意義と目的を復習し、これまで学習した各項目の特徴について、口頭実技を交えて総合的に評価、説明がで	木村友飛

			きる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ また、それらを基に身体の現症や治療法について総合的に評価、説明ができ、施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	
12	前期	12. 認定実技対策と国対 12(国試対策)	① 身体評価(検査法測定法)の実施に関する意義と目的を復習しこれまで学習した各項目の特徴について口頭実技を交えて総合的に評価、説明ができる ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ また、それらを基に身体の現症や治療法について総合的に評価、説明ができ、施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。 ④ 運動表示に関わる基本姿勢や運動(関節可動域表示や測定など)の記載することができる。 ⑤ 身体の基本面、運動軸、関節運動の記載・表現について説明ができる。	木村友飛
13	前期	13. 認定実技対策と国対 13(国試対策)	① 身体評価(検査法測定法)の実施に関する意義と目的を復習しこれまで学習した各項目の特徴について口頭実技を交えて総合的に評価、説明ができる ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ また、それらを基に身体の現症や治療法について総合的に評価、説明ができ、施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる 身体運動に関与する力について力学の基礎(運動の形、ベクトル、剛体に働く力、運動の法則、単位など)について理解し説明することができる。 ④ 身体運動に関与する力について力学の基礎(テコ、滑車と輪軸、力学的有	木村友飛

			利性など)について理解し説明することができる。 ⑤ 身体運動に関与する力について力学の基礎(仕事と力学的エネルギーなど)について理解し説明することができる。 柔道整復師国家試験に相当する知識を中心に学習する。	
14	前期	14. 認定実技対策と国対 14(国試対策)	① 身体評価(検査法・測定法)の実施に関する意義と目的を復習し、これまで学習した各項目の特徴について、口頭実技を交えて総合的に評価、説明ができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ また、それらを基に身体の現症や治療法について総合的に評価、説明ができ、施術から生じるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる 人体の骨、関節、骨格筋の基本的な構造と機能について理解し説明することができる。 ④ 柔道整復師国家試験に相当する知識を中心に学習する。	木村友飛
15	前期	15. 認定実技対策と国対 15(国試対策)	① これまで学習した各項目の特徴について説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を講じることができる。	木村友飛
16	後期	16. 認定実技対策と国対 16(国試対策)	① これまで学習した各項目の特徴について説明できる。	木村友飛

			② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ④ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を講じることができる。	
17	前期	17. これまでのまとめ総括（質疑応答） 定期試験 卒業後の臨床を見据え、そのデータから身体の現症について評価、考察し、治療計画を立案する。	① これまで学習した身体評価（検査法・測定法）を総合的にみて、意義と目的、注意点を理解できる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ これまで実施した検査結果から身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ④ 総合的な評価結果から柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して予防を講じることができる。	木村友飛
成績評価方法		筆記試験は、記述式あるいは4択問題にて100点満点での評価をする。あるいは課題の提出により100点満点の評価をする		
準備学習など		柔整セット（メジャー、打腱器、ゴニオメータ等）の持参。 基本的には白衣・実習服の着用を義務付ける（実習を行うにあたり行きやすい恰好として短パンやTシャツなどを適宜認める）。 ① 当該項目にあたる教科書や配布資料、参考書等を事前に復讐しておく。 ② 講義中の私語、携帯端末使用は原則禁止する。 ③ 復習を重視しているので確認テスト（小テスト）を複数回行う場合がある。 ④ 適宜ディベートやグループディスカッションを行う。 ⑤ パワーポイントや配布資料に基づいて授業を行うことがある。 ⑥ 学習状況や進捗状況に応じて授業計画を一部変更する場合がある。		

学科・年次	柔道整復科・3 学年
科目名	応用柔整実技 I
担当者	玉置大輔
単位数（時間数）	1 単位（34 時間 17 コマ 前期）
学習方法	講義（座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション）、個人ならびにグループ実習
教科書・参考書	公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書（柔道整復学理論編・実技編、リハビリテーション医学、運動学、解剖学、生理学、一般臨床医学） 理学療法評価学（金原出版）、診察と手技が見える（メディックメディア）

授業概要と目的
応用柔整実技 I では「身体評価」を学習する。「評価に始まり評価に終わる」と称されるほど「身体評価」は柔道整復術を施術し効果を判定するうえで必要不可欠な課題である。情報収集を行い、治療プログラムを勘案し、治療効果の検証や判定などの評価過程（方法論・検査技術）を柔道整復師として臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。 1 学年で学んだ基本的な知識（解剖学・生理学・運動学等）を基に、グループワークを通じて、基本的な人体測定（上下肢長や周径等）や検査方法（バイタルや反射、ROM、MMT 等）について柔道整復師国家試験に相当する知識を中心に学習する。また、得られた検査結果を正確に記録しそのデータから身体の現症について評価、考察することを学習する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	1. ガイダンス 身体評価について、評価法（検査法や測定法）の概略を知る。	① 身体評価（検査法・測定法）の実施に関する意義と目的を知る。	玉置大輔
2	前期	2. バイタルについて知る。 意識レベルの評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① JCS や GCS による意識レベルの基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② JCS や GCS による意識レベルの評価をパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ JCS や GCS による意識レベルの結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
3	前期	3. バイタルについて知る。 意識レベルの評価（2） デモンストレーション後、学生同	① JCS や GCS による意識レベルの基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② JCS や GCS による意識レベルの評価をパートナーに正しく愛護的に実施	玉置大輔

		士で実施する。	できる。 ③ JCSやGCSによる意識レベルの結果から身体の現症について評価できる。	
4	前期	4. バイタルについて知る。 脈拍の測定と評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 脈拍の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 脈拍の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ① 脈白の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
5	前期	5. バイタルについて知る。 脈拍の測定と評価（2） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 脈拍の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 脈拍の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 脈白の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
6	前期	6. バイタルについて知る。 血圧の測定と評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 血圧の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 血圧の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 血圧の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
7	前期	7. バイタルについて知る。 血圧の測定と評価（2） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 血圧の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 血圧の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 血圧の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
8	前期	8. バイタルについて知る。 心拍、SpO₂ の測定と評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 心拍、SpO₂ の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 心拍、SpO₂ の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 心拍、SpO₂ の測定・検査結果から身	玉置大輔

			体の現症について評価できる。	
9	前期	9. バイタルについて知る。 心拍、SpO₂ の測定と評価（2） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	④ 心拍、SpO₂ の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ⑤ 心拍、SpO₂ の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ⑥ 心拍、SpO₂ の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
10	前期	10. バイタルについて知る。 体温の測定と評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 体温の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 体温の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 体温の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
11	前期	11. バイタルについて知る。 体温の測定と評価（2） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 体温の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 体温の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 体温の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
12	前期	12. バイタルについて知る。 呼吸様式の観察と評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 呼吸の観察、測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 呼吸の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 呼吸の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔

13	前期	13. バイタルについて知る。 呼吸様式の観察と評価（2） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 呼吸の観察、測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 呼吸の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 呼吸の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
14	前期	14. 腱反射・表在反射・病的反射について知る。 深部腱反射の検査法と評価（1） デモンストレーション後学生同士で実施する。	① 深部腱反射の検査方法の基礎について意義と目的を理解できる。 ② 深部腱反射の検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 深部腱反射の検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
15	前期	15. 腱反射・表在反射・病的反射について知る。 表在反射・病的反射の検査法と評価（1） デモンストレーション後学生同士で実施する。	① 病的反射・表在反射の検査方法の基礎について意義と目的を理解できる。 ② 病的反射・表在反射の検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 病的反射・表在反射検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
16	前期	16. 腱反射・表在反射・病的反射について知る。 表在反射・病的反射の検査法と評価（2） デモンストレーション後学生同士で実施する。	① 表在反射の検査方法の基礎について意義と目的を理解できる。 ② 表在反射の検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 表在反射検査結果から身体の現症について評価できる。	玉置大輔
17	前期	17. これまでのまとめ 定期試験	① これまで学習した身体評価（検査法・測定法）を総合的にみて、意義と目的、注意点を理解できる。	玉置大輔

			② これまで実施した検査結果から身体 の現症について総合的に評価、説明が できる。 ③ 総合的な評価結果から柔道整復術か ら生じる可能性のあるリスクや事故 を考察して予防を講じることができる。	
成績評価方法	総合点数を（100%または 100 点）に換算。 （成績評価は科目試験 60%、レポート提出、小試験を 40%含む）			
準備学習など	柔整セット（メジャー、打腱器、ゴニオメータ等）の持参。 基本的には白衣・実習服の着用を義務付ける（実習を行うにあたり行いやすい恰好として短パ ンやTシャツなどを適宜認める）。 ① 当該項目にあたる教科書や配布資料、参考書等を事前に復讐しておく。 ② 講義中の私語、携帯端末使用は原則禁止する。 ③ 復習を重視しているので確認テスト（小テスト）を複数回行う場合がある。 ④ 適宜ディベートやグループディスカッションを行う。 ⑤ パワーポイントや配布資料に基づいて授業を行うことがある。 ⑥ 学習状況や進捗状況に応じて授業計画を一部変更する場合がある。			

学科・年次	柔道整復科 3 学年
科目名	柔道整復科・応用柔整実技Ⅱ
担当者	玉置大輔
単位数（時間数）	1 単位（34 時間 17 コマ 後期）
学習方法	講義（座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション）、個人ならびにグループ学習とプレゼンテーション、実技シミュレーション
教科書・参考書	公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書（柔道整復学理論編・実技編、運動学、解剖学、生理学、一般臨床医学）

授業概要と目的
応用柔整実技Ⅱは、柔道整復師として臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。柔道整復師認定実技審査、柔道整復師国家試験必修科目に相当する知識を中心に身体構造や機能解剖、基礎運動学を理解し、運動観察や評価（可動域制限や筋力低下、協調運動障害の原因など）を交えて「運動機能障害」について学び、疾患（障害）に対する柔道整復学理論・実技の適応となる疾患について、柔道整復師に必要な運動器評価、認定実技審査に関する知識と臨床に必要な見識を身につけることを目的とする。また、そのうえで、課題に対して身体の正常運動と病態運動を比較説明し治療シミュレーションやプレゼンテーションを行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	1. ガイダンス 認定実技対策と国対(国試対策) シミュレーションと国対 1	① 講義の進め方について説明し本講義に関する意義と目的を知る。 ② 基本的な運動療法について説明することができる。	玉置大輔
2	後期	2. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション	① 基本的な運動療法について説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。	玉置大輔
3	後期	3. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション A. 上肢帯の運動と障害、評価、治療について学習する。	① 上肢帯の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	玉置大輔

4	後期	4. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション B. 肩関節の運動と障害、評価、治療について学習する。	① 肩関節の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	玉置大輔
5	後期	5. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション C. 肘関節と前腕の運動と障害、評価、治療について学習する。	① 肘関節と前腕の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	玉置大輔
6	後期	6. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション D. 手関節と手の運動と障害、評価、治療について学習する。	① 手関節と手の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	玉置大輔
7	後期	7. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション E. 股関節の運動と障害、評価、治療について学習する。	① 股関節の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説	玉置大輔

			明することができる。	
8	後期	8. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション F. 膝関節の運動と障害、評価、治療について学習する。	① 膝関節の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	玉置大輔
9	後期	9. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション G. 足関節と足部の運動と障害、評価、治療について学習する。	① 足関節と足部の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	玉置大輔
10	後期	10. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション H. 体幹と脊柱の運動と障害、評価、資料について学習する。	① 体幹と脊柱の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	玉置大輔
11	後期	11. 認定実技審査シミュレーションと国試対策 11	① 頸椎、胸椎と胸郭の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。	玉置大輔

		四肢と体幹の障害 I. 頸椎、胸椎と胸郭の運動と障害、評価、治療について学習する。	② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	
12	後期	12. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション J. 腰椎、仙椎および骨盤の運動と障害、評価、治療について学習する。	① 腰椎、仙椎および骨盤の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	玉置大輔
13	後期	13. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション まとめ①	⑤ これまで学習した各項目の特徴について、口頭実技を交えて説明できる。 ⑥ 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ⑦ また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ⑧ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	玉置大輔
14	後期	14. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション まとめ②	① これまで学習した各項目の特徴について、口頭実技を交えて説明できる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ④ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	玉置大輔

15	後期	15. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション まとめ③	① これまで学習した各項目の特徴について、口頭実技を交えて説明できる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ④ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	玉置大輔
16	後期	16. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション まとめ④	① これまで学習した各項目の特徴について、口頭実技を交えて説明できる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ④ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。	玉置大輔
17	後期	17. 認定実技対策と国対 国試必修問題対策と認定実技審査シミュレーション 統括と試験 ・実技試験・期末試験	① これまで学習した各項目の特徴について、口頭実技を交えて説明できる。 ② 実技審査課題に対するシミュレーションができる。 ③ また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ④ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を説明できる。 ⑤ 総括（質疑応答）	玉置大輔
成績評価方法		総合点数を（100%または100点）に換算。 （成績評価は科目試験60%、実技試験、レポート提出、小試験を40%含む）		

準備学習など	講義は国家試験、認定実技審査を想定している。 ⑦ 講義に参加する際は実習服、実習靴に着替え、装飾品を身に着けず身だしなみに留意して5分前には用意を済ませて静かに着席し受講すること。 ⑧ 当該項目にあたる教科書や配布資料、参考書等を事前に復讐しておく。 ⑨ 復習を重視しているので実技模試、口頭試問、確認テスト（小テスト）を複数回行う場合がある。 ⑩ 適宜講師、指導員、グループリーダーの指示もと授業を行う、特別な理由を除き理解と協力を努める。講義中の私語、無断撮影、無断録音、携帯端末使用は原則禁止する。 ⑪ 適宜ディベートやグループディスカッションを行うことがある。 ⑫ パワーポイントや配布資料に基づいて授業を行うことがある。 ⑬ 学習状況や進捗状況に応じて授業計画を一部変更する場合がある。
--------	---